

【機密性 1】

令和 7 年 6 月 5 日（木）

総務企画部

オープンシティ・プロモーション室

## 定例記者会見 市長コメント（概要）

### ①令和 7 年 6 月釜石市議会定例会付議事件について **資料 1**

6 月 6 日に招集する定例会に付議する事件は、10 件。

内訳は、報告 3 件、条例 4 件、予算 1 件、その他 1 件、人事案件 1 件。

条例は、子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律が令和 6 年 6 月 12 日に公布されたことにより、児童福祉法の一部が改正されたことに伴い、「乳児等通園支援事業」いわゆる「こども誰でも通園制度」の基準を定める「釜石市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」などを提案する。

今議会に提案する予算は、令和 6 年度の繰越にかかる報告が 3 件、令和 7 年度補正予算が 1 件であり、補正予算は、一般会計の 1 件である。

資料 1-6、「予算の概要と主要事業」の 1 ページ、一般会計の補正額は 4 億 8,200 万円の増額で、補正後の予算額を 252 億 7,000 万円としたもの。

国や岩手県の補助金及びスポーツ振興くじ助成金の内示を受けた事業などを計上し、新規事業は、資料 8 ページに掲載のとおり、4 件、1 億 5,284 万 8 千円である。

今回提案する予算のうち、主要な事業を説明する。

資料 4 ページ、番号 5 の「JR 釜石線沿線自治体連携利用促進事業」、予算額 300 万円は、JR 釜石線の維持存続に向けた利用促進などに取り組むため、JR 釜石線沿線自治体 4 市町と岩手県及び鉄道事業者で構成する JR 釜石線利用促進協議会に対し、負担金を支出するもの。

資料 5 ページ、番号 7 の「室内の遊び場整備事業」、予算額 4,075 万 1 千円は、子どもの健全育成及び子育て環境の充実を図るため、雨の日など天候に左右されず年間を通して安心して遊ぶことができる室内の遊び場を、岩手県の補助金を活用して来春のオープンを目指し整備するもの。

番号 9 の「釜石産農畜産物 PR 事業」、予算額 520 万円は、国の新しい地方経済・生活環境創生交付金を活用し、甲子柿、すずこま、梅等の農産物及び鶏肉等、釜石産農畜産物の認知度向上、販路拡大、生産者の生産意欲の醸成及び新規就農者の確保につなげるため、PR 活

動等を行うもの。

資料 6 ページ、番号 12 の「持続可能な観光地域づくり推進事業」、予算額 1,530 万円は、国の新しい地方経済・生活環境創生交付金を活用し、次期観光計画の策定に向けた調査や、みちのく潮風トレイル、三陸ジオパークを活用した観光プログラムの造成及び訪日外国人の受入態勢強化、特産品のブランド化等による魅力向上を図るもの。

資料 7 ページ、番号 15 の「釜石市球技場改修事業」、予算額 9,159 万 7 千円は、開設から 12 年が経過した釜石市球技場のサッカーグラウンドは使用頻度が高く、経年による人工芝の劣化が進んでいることから、安全な利用環境を整えるため、スポーツ振興くじ助成金を活用して、人工芝の改修を行うもの。

その他の議案は、新市庁舎への移転に合わせ、現市庁舎から新市庁舎へ防災行政無線設備一式を移転するとともに、一部老朽化した設備を更新し、もって防災行政無線設備の機能強化を図ることを契約目的とする「釜石市防災行政無線設備移設業務の委託契約の締結に関し議決を求めることについて」を提案する。

人事案件は、「釜石市固定資産評価員の選任に関し同意を求めることについて」を提案する。

## ②令和 7 年国勢調査釜石市実施本部の設置について 資料 2

本年 10 月に行われる令和 7 年国勢調査の実施体制を整え、調査業務の万全を期するために、釜石市実施本部を設置した。

本調査は、国の最も基本的な統計調査として、大正 9 年以来ほぼ 5 年ごとに行われており、各種行政施策の基礎資料を得るための重要な調査である。

当市では、39 人の指導員と 244 人の調査員が調査に携わり、今後指導員・調査員の依頼を行っていく。

調査票の回答は前回同様、パソコン、タブレット、スマートフォンから回答できるインターネット回答が推奨されている。総務省ではインターネットでの回答率 50%を目標にしていることから、当市でも前回の国勢調査でのインターネット回答率 27.5%を上回るよう取り組むこととしており、インターネットでのご回答にご協力いただくよう、周知に協力いただくとともに、調査への理解、協力をお願いしたい。

### ③「明治日本の産業革命遺産」製鉄・製鋼、造船、石炭産業 世界遺産登録 10 周年について

#### 資料 3

当市の「橋野鉄鉱山」が構成資産となっている「明治日本の産業革命遺産」は 8 県 11 市にまたがる 23 資産で構成され、西洋から始まった産業化が東洋の日本において、19 世紀半ばから 20 世紀初頭までの短期間で花咲いたプロセスを知ることができる貴重な遺産群である。

「橋野鉄鉱山」は、近代製鉄の父といわれる盛岡藩士・大島高任の技術指導により、日本で初めて鉄の連続生産に成功し、後の官営製鉄所に至る近代製鉄の初期の段階を示す貴重な文化遺産であり、日本で現存する最古の高炉跡である。

今年度、この橋野鉄鉱山を構成資産の一つとする世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」が、平成 27 年 7 月の世界遺産登録から 10 周年を迎えるにあたり、登録 10 周年を記念した特別イベントを開催するもの。

7 月 12 日(土)に釜石市民ホールで、「明治日本の産業革命遺産」橋野鉄鉱山世界遺産登録 10 周年記念シンポジウムを、翌 7 月 13 日(日)に橋野鉄鉱山インフォメーションセンター周辺で橋野鉄鉱山マルシェをそれぞれ開催する。

記念シンポジウムでは、歴史作家として活躍し、また多くのメディアで歴史解説をされている河合敦<sup>かわいあつし</sup>氏による講演のほか、「釜石の鉄の歴史を活用する」をテーマとしたパネルトークを行う予定にしている。

また、「橋野鉄鉱山マルシェ」では、現地でのラベンダーまつりにキッチンカー等の 27 店の出店を予定しており、これと併せて「森の音楽会」を開催し、仙台フィルハーモニー管弦楽団第 2 ヴァイオリン副首席・小川有紀子さんとその門下生 3 名による、今回限定の特別編成アンサンブル「TETTO ヴァイオリンアンサンブル」に出演していただく予定としている。

10 月 11 日(土)、12(日)には、岩手県主催により、釜石市民ホールを会場に、「いわて世界遺産まつり in 釜石」の開催が予定されている。当市の橋野鉄鉱山をはじめ、県内に所在する世界遺産である平泉、御所野遺跡の価値や魅力を発信し、本県の歴史や文化に対する理解を深めていただきたい。現時点においては、講座、体験プログラム、フォーラム、民俗芸能の演舞等を計画していると伺っているが、詳細につきましては決まり次第、改めてお知らせする。

橋野鉄鉱山に親しみ、楽しむ機会を通じて、ふるさと釜石の貴重な資源である橋野鉄鉱山

への理解を深めるとともに、持続的な保護と活用を図ってまいりたい。